

劉 匠 (経営4)

ベトナムを訪ねるのは 実家が料理店を営んで は大変興味深いことでし 初めての体験です。同じ いるため、料理に香りを した。 アジアの国なのに、交通 たくさん使うところなど 特に印象に残ったの

印象に残った学生たちの笑顔

は、ベトナムの学生の笑 しい、ここでも笑顔が 顔です。 絶えませんでした。 話をしました。 ハノイ校の学生たちと ホームステイ先では、 ホストファミリーのお 座席にさせてもらい(ス は毎日のように交流があ 現地の人々の生活を実際 ばあさんの家にも連れて 行ってもらいました。日 イの街並みを楽しみまし かけてくれました。彼ら なく、ベトナムの家族の 本語を話せないおばあさ た。

人は温かく接し、幸せ そうに暮らしているベト ナムの人たち。日々の生 活をこよなく愛し、なに よりも明るく充実した毎 日を送ることに意味が あることがよくわかりま た。

バスの中では、ベトナムの歌を披露 しているの、私が勉強し れました。

ファミリーのお姉さんは を抱き寄せてくれ、まる うな異文化に触れられた ことは、貴重な体験でし た。

卓を囲みました。ホスト 写真を撮るときは、肩 した。大学生活でこのよ

温かきにも触れることが ぐに打ち解け合い、まる で昔からの友達のように 冗談を言い合ったりしま



▲ 後列左端の阿藤学生部長の右隣が倉橋さん、前列右から3人目が劉さん＝陶器の村・バッチャンで

倉橋 美帆 (経済3)

大学入学以来、東南ア ジアに興味を持ち、東南 アジアのどこかをせひ訪 ねてみたい、さまざま な 体験してみたいと思っ ているので、このセミナ

ベトナムに到着してか 寺や文廟、ホーチミン廟 の最初の3日間は、ベト ナム語の授業に加えてお きました。

言葉の壁を超えた貴重な体験

移動のバスでは常にハ が、とにかくたくさん会 ？と聞いてはメモをす けることがわかりまし

ノイ校の学生が同席して 話をしよう、楽しもうと する姿が印象的でした。私 た。

心げました。 彼女たちは、よくしゃ べり、よく笑います。こ

ハノイ校の学生たちは を教えてもらいました。 ストファミリーのチュン ベトナム人と共通して言

えらることだと感じまし た。

彼女たちは、勉強中 のと行動を共にしました。

ハノイ校の学生ばかり でなく、このセミナーで はたくさんの出会いがあ

りました。

かけがえのない大切な 友達が出てきて、宝物の思

い出となりました。

寄稿

セミナー「ベトナムに行こう」

学生部セミナー「ベトナムに行こう」は 3月3日から12日まで阿藤正道学生部長は じめ学生14人が参加し、ベトナムの首都ハ ノイを中心に行われた。

参加者は、専修大学の国際交流協定校で あるベトナム国家大学ハノイ人文社会科学 大学(以下、ハノイ校)で日本語を勉強す る学生と交流、ベトナム語研修やハノイ校 の学生宅でのホームステイ(2日間)を体 験した。

世界遺産の景勝地ハロン湾ではクルーズ を楽しみ、有意義な10日間を過ごした。2 学生からの寄稿を紹介する。



専大とともに 神田神保町探索

専大から神保町2丁目を抜けて白山通り に抜ける途中、シックな雰囲気の花屋さん がある。昨年5月にオープンした生花店「花・マリアージュ」は、西神田と神保 町界隈で営業を始めて今年で10年目。淡い 色合いの切り花と入り口正面のタイトル張りの水場を見ただけで、センスの良さが伝わ ってくる。

「買わなくてもいいですから、どうぞお 花を見てください」と迎える店主の多田真 砂子さんは「これは正直な気持ちです。笑う。

北向きの物件を探し、入り口のすぐ前に生 花を置くのはひとえに花への愛情から。中 間色のパンジーや茶色のヒマワリ、緑の縁 取りがある薄いグリーンのアンスリウムを はじめ、多田さんが早朝3時半に大田市場 に駆けつけ選りすぐった花の中には珍しい ものが多い。

24歳のとき、「何か変えたい」と会社帰りに フラワーアレンジメント教室に通い始め たのが今に通じる出発点。インテリアコー ディネーターを目指し、その勉強の一環の つもりが、講師を務めるほどに腕を上げた。当時は製薬会社の研究員で血栓症の治 療薬を探っていたが、退職に迷いはなかつ たという。その後フラワーアレンジメン



▲ 白山通りの裏道にある「花・マリアージュ」

シックな雰囲気の中に彩りある花の表情 生花店 花・マリアージュ



▲ 白、緑、ピンク...季節の花を手にする多田さん

トから鉢物、苗、土づくりへと研究心で突 き進み、生花店と造園会社で幅広い修業を 積んだ。組み合わせ次第で花は思わぬ表情 を見せる。元気いっぱいヒマワリにクリ ームイエローのバラを添え、優雅なブーケ に。幼いころよくレンゲで冠を作り、端切 れをあれこれ並べては色柄のバランスやニ ュアンスの変化を見るのが好きだった、と 聞けば多田さんが本来の道を選んでいるこ とにうなずくしかない。

最近では若い男性客も多い。プレゼントで はなく自分用に1000円、1500円と 予算を決め、ちょっと変わった花を買って いく。就活で忙しい時期も「コップに1輪 でもいいんです。玄関に花があるとホッと するはず」と多田さん。ご近所の縁を大事 にしたいと、専大関係者にはサービスを約 束してくれた。

毎月第3の水曜と木曜の月2回、18時か らフラワーアレンジメントや花束、リース などの教室を開催している(1回だけの参 加可)要予約、花材のみ3000円。

※生花店「花・マリアージュ」東京都 千代田区神田神保町2-22 ☎03・6272・6678 9時~19時(土曜17時)。日 曜定休(予約販売のみ)。